

令和 4 年度第 4 回全国健康保険協会山口支部評議会議事概要

開催日時：令和 5 年 3 月 30 日（木）10：00～11：50

開催場所：山口県健康づくりセンター 1 階第 3 研修室

出席者：宇佐美評議員、齊藤評議員、水津評議員、田中評議員、中野評議員、
宮地評議員、村上評議員（五十音順）

議 題

1. 令和 5 年度山口支部 KPI（重要業績評価指標）および令和 5 年度山口支部事業計画について
1. 令和 5 年度山口支部 KPI（重要業績評価指標）および令和 5 年度山口支部事業計画について
資料に基づき事務局から説明。

《事業主代表》

基盤的保険者機能関係における KPI のほとんどの項目は、全国平均を上回っているが、効果的なレセプト内容点検の推進の項目だけが全国平均を下回っているのは何か原因があるのか。

《事務局》

査定率については、支払基金（全国 41 位）と協会（全国 8 位）との合算した結果の数値で評価される。レセプトチェックは基金で査定済のものを協会が再度チェックするもので、基金の査定率が協会の査定率を上回るのが常であるが、山口県では割合が同程度となっている。こうした結果を支払基金の審査協議会で問題提起しているが、支払基金も査定結果の地域差異を認識し、AI 導入や審査体制の見直しを行い差異解消に努めている。

《事業主代表》

サービス水準の向上において現金給付等の申請の郵送化を掲げているが、郵送は土日の配達がないなどトラブルが多く、経産省は電子申請以外受け付けないという取組がなされるなか郵送化を推進するという発想は逆行しているように思うが。

《事務局》

現段階では郵送化を進めているが、電子申請も当然検討段階に入っており、1月のシステム刷新を待たうえて電子申請の準備に入り、令和8年1月サービスインを目指して準備を進めており、利便性が上がるように取り組んでいる。

《《被保険者代表》

効果的なレセプト内容点検の推進①で査定率の説明があり、その結果0.284%減額したということと思われるが、実際に減額した額やそれに対する費用を具体的に示してもらえれば、保険料率にどの程度寄与している業務かより分かりやすくなると思う。

《事務局》

例えば、レセプト点検員の中で年間一番査定している人は約1千万円査定している。人件費等を費用とすれば費用対効果は十分発揮しているが、支払基金、協会の医療費チェック水準が上がり、その結果が医療請求の現場にフィードバックされることが重要と考えている。

《被保険者代表》

各申請書が1月から変更になり、入力項目が非常に少なくなり事務を進めるうえでとても楽になり、とても便利になった。

《学識経験者代表》

コラボヘルスの推進で健康宣言事業所数をKPIとしているが、当然事業者の規模数や数は違うので何を比較してみていくのか。

《事務局》

協会けんぽ全体としては、令和5年度の目標値を7万事業所以上としている。また、日本健康会議の実行宣言2025の目標値は10万社以上となっており、目標値を設定する際に山口支部の加入事業者数は協会全体の1%なので、まずは10万社の1%である1,000社を目標に取り組んできた。また、令和4年度から質の向上も併せて進めている。

《事業主代表》

以前、ジェネリック医薬品の製造に関する業務に従事していたこともあり伺いたい。昨今、ジェネリック医薬品製造メーカーの不祥事でジェネリック医薬品に対する信頼性が落ちている。また、行政処分を受けて供給にも不安が出ているが、今後順調にジェネリック医薬品のシェアが伸びていくと考えておられ

るのか。

《事務局》

先日開催された支部長会議の中の厚労省の講話において、ジェネリック医薬品の信頼性は確保されているので引き続き推進していく方針に変わりはないとの内容であった。令和 5 年度も、協会けんぽの全支部で 80%以上の使用割合を達成できるように取り組んでいく。

《学識経験者代表》

重症化予防対策の推進において、受診勧奨後 3 か月以内に医療機関を受診したものの割合を 13.1%以上とするとあるが、低い数字で衝撃を受けている。働く世代は年齢的に病院に行く時間が取りにくいのかも知れないが、令和 5 年度は事業主による要治療者への受診勧奨を追加して取り組むということなので、事業所側の認識を高めていき推進していってほしい。

《事務局》

受診勧奨 1 回目の時期が健診から約半年後になるので、訴求する力になるかなというところはあるが、啓蒙活動を組み合わせて取り組んでいきたいと考えている。

《学識経験者代表》

職場の集団健診は、朝から受診して結果がでるのが後日となるので、モデル事業として、集団健診を受けて当日結果が出るまで血糖値を意識した食事をとり、講話を聞いたり筋肉をつけるための運動を行い、自動車免許の更新のようにあなたは無事に通過しました、あなたはこちらですと保健指導が受けられるように 100 人単位で事業所と病院が組んで実りある集団健診を行うことはできないか。費用はかかるがモデル的に取り組んでみるのもありなのかなと思う。また、全国的に実施率などの間接効果しか見ておらず直接効果は測れていないので、そういう壁を取り外すためにも 1 日自分の健康と向き合う日にしていくモデルができないかなと思う。

《事務局》

令和 6 年度から特定保健指導の成果を重視し、主要達成目標腹囲 2 c m、体重 2 k g 減とするアウトカム評価が導入される。費用が限られた中で、保健指導の質、成果が課題ととらえている。また、山口県はがん検診受診率と女性の特定健診受診率が低いので、市町のがん検診と特定健診の集団健診を一緒にする取り組みを進めている。全国でみても市町との連携の中のがん検診の共

同開催はかなり進んでおり、さらに増やしていくために市町の行政と連携を進めていく中で、市が魅力を感じる取り組みをプラスアルファで加えられればと思うので、その際はご協力をお願いできたらと思う。

《事業主代表》

宇部商工会議所では、会報誌に健診の補助等を掲載しているが実際に利用している会員は少ないので、会員にLINE登録を行うよう依頼していき情報発信を行っている。

《事業主代表》

年収の壁があり、一定の金額を超えると社会保険料を払わなくてはならないとかいろいろ影響があるが、労働者の就業しようという意思が年収の壁があることで働かせないような壁になってしまっているの、年収が少ない方でもそれなりの社会保険料を払ってもらおうという制度にすることがベストだと思う。

以上